

令和6年度 市川市自殺対策関係機関連絡会

次 第

日時：令和6年10月28日（月）

午後2時00分から午後3時30分

場所：市川市保健センター4階大会議室

1 開会

2 挨拶

3 内容

（1）いのち支えるいちかわ自殺対策計画（第3次）について

（2）実態報告

（3）自殺対策事業実績報告

（4）その他

4 閉会

いのち支えるいちかわ自殺対策計画（第3次）

計画期間：令和6（2024）年度～令和10（2028）年度

市川市では、平成30年度に「いのち支える自殺対策計画（第2次）」を策定し、取り組みを行ってきました。この取り組みを一層推進するために、令和6年度からの「いのち支える自殺対策計画（第3次）」を策定いたします。

計画の位置付け

自殺対策基本法や自殺総合対策大綱、第2次千葉県自殺対策推進計画等を踏まえ、本市の基本計画である「市川市総合計画 I & I プラン 21」や、その関連計画との整合性を図っていきます。

基本理念

共に理解しあい、生きていくまち市川市

計画の数値目標

国及び千葉県では、令和8年（2026年）までに、自殺死亡率を平成27年（2015年）と比べ、30%以上減少させることを数値目標として設定しています。

本市においても、令和8年（2026年）の自殺死亡率を30%減少させることとし、本計画終了時点で目指す自殺死亡率の数値目標を下記のとおりとします。

市川市	現状	目標
目標	平成26年（2014年）～ 平成28年（2016年）の平均	令和6年（2024年）～ 令和8年（2026年）の平均
自殺死亡率（10万人対）	17.4 30%以下	12.2 以下

* 自殺死亡率は単年ではバラつきがあるため、3か年の平均を指標としています。

本市の自殺の実態を分析した結果等を踏まえ、生きる支援の取組として基本目標と、基本施策及び重点施策を設定し、重層的に対策を講じていきます。

基本目標

1. 安心して暮らせる地域づくり
2. 教育・啓発の推進
3. 充実した相談支援体制の推進
4. 関係機関及び庁内関係部署との連携

基本施策の数値目標

基本施策	評価指標	第2次計画での目標値	現状 令和5年度 (基準年)	第3次計画目標 令和10年度 (評価年)
1. 自殺対策を支える人材の育成	① ゲートキーパー養成講座（市民向け）の参加者数	累計 400人見込 (H31年度～R5年度累計)	累計 580人見込 (H31年度～R5年度累計)	累計 725人
	② ゲートキーパーの認知度の向上	3.9%	19.8%	30%
	③ ゲートキーパー研修受講者のうち「自殺対策に対する理解が深まった」と回答した人の割合	90%以上	90%見込	90%
	④ 自殺は社会的な取組で防ぐことが出来る認識の向上	50%以上	42.0%	50%
2. 市民への周知と啓発	⑤ 「自殺予防週間」や「自殺対策強化月間」を知っている人の割合	—	26.5%	30%
	⑥ メンタルチェックシステム「こころの体温計」、本人モードのアクセス数（人数・延）	20,000人以上	20,000人見込	20,000人以上
	⑦ 睡眠で休養が十分にとれている人の割合	70%	67.9%	75%
3. 若い世代に関する支援	⑧ 相談カードの配布数	4,500部	8,000部見込	8,000部
	⑨ 若年(40歳未満)のこころの相談実施件数（延）	27人以上	250人見込	250人
	⑩ 若い世代の自殺の第1位が自殺という認識	21.2%以上	28.8%	40%
	⑪ 市の自殺対策に関する認知度	10%	8.4%	25%
	⑫ 市のSNS等による周知回数	4回以上	4回見込	4回以上
4. 生きることへの促進要因への支援	⑬ 悩みごとや困ったことがあったときに誰かに相談している人の割合	62%以上	61.7%	65%
	⑭ 市川市民のテレホンガイドの配布数	—	20,000部見込	22,000部/年
5. 遺された人への支援	⑮ 自死遺族相談の周知と実施	月1回実施	随時実施 (相談希望時に実施)	毎年度継続実施
6. 地域におけるネットワークの強化	⑯ 「生きるを支える相談窓口一覧」配布数	2,500部 (H31年度～R5年度累計)	500部見込	500部
	⑰ 自殺対策関係機関連絡会と庁内連絡会の開催回数	—	4回見込	2回以上/年
	⑱ 多機関協働事業【地域共生課】相談支援機関等から多機関協働事業につながったケース数	—	210件	400件

重点施策の数値目標

重点施策	評価指標	第2次計画での目標値	現状 令和5年度 (基準年)	第3次計画目標 令和10年度 (評価年)
1. 働く世代に対する自殺対策の推進	① 快適睡眠講座実施後に「睡眠とうつ病の関係」を理解できたか	20%以上	89.6%	90%
	② 20歳代から60歳代の市民アンケート回収率	—	23.4%	30%
	③ 20歳代から60歳代のうつ病に関する3つのアンケート項目について「知っていた」と回答した人の割合	—	95%	95%
	④ 若年者等就労支援事業における相談開催回数【商工業振興課】	—	25回 (R5.10.16現在) ※年間45回の予定	45
	⑤ 労働なんでも相談の相談開催回数【商工業振興課】	—	13回 (R5.10.16現在) ※年間24回の予定	24
2. 児童生徒に対する自殺対策の推進	⑥ 若者のための相談ガイドの配布数	22,000部	22,000部見込	22,000部
	⑦ SOSの受け止め方に関する普及啓発実施回数	—	1回	1回
	⑧ 市内公立小学校・中学校の教員への相談カード配布数	100%	100%見込	100%
3. 女性に対する自殺対策の推進	⑨ 相談カードの配布数	4,500部	8,000部見込	8,000部
	⑩ 母と子の相談室の実施回数	8回	8回	8回
	⑪ 母子訪問利用者数（実）	—	3,824人見込	3,824人
	⑫ 産後ケア事業利用者数	—	216人見込	276人
	⑬ 母子保健相談窓口来所件数	—	5,900人見込	5,500人
4. 生活困窮者に対する自殺対策の推進	⑭ ゲートキーパー研修の実施件数（職員向け）	10件以上 (H31年度～R5年度累計)	3件	3件
	⑮ 生活困窮者支援等のための地域づくり事業【地域共生課】地域住民が主体となって実施している地域の特色にあったサロン開催数	—	113箇所	134箇所以上

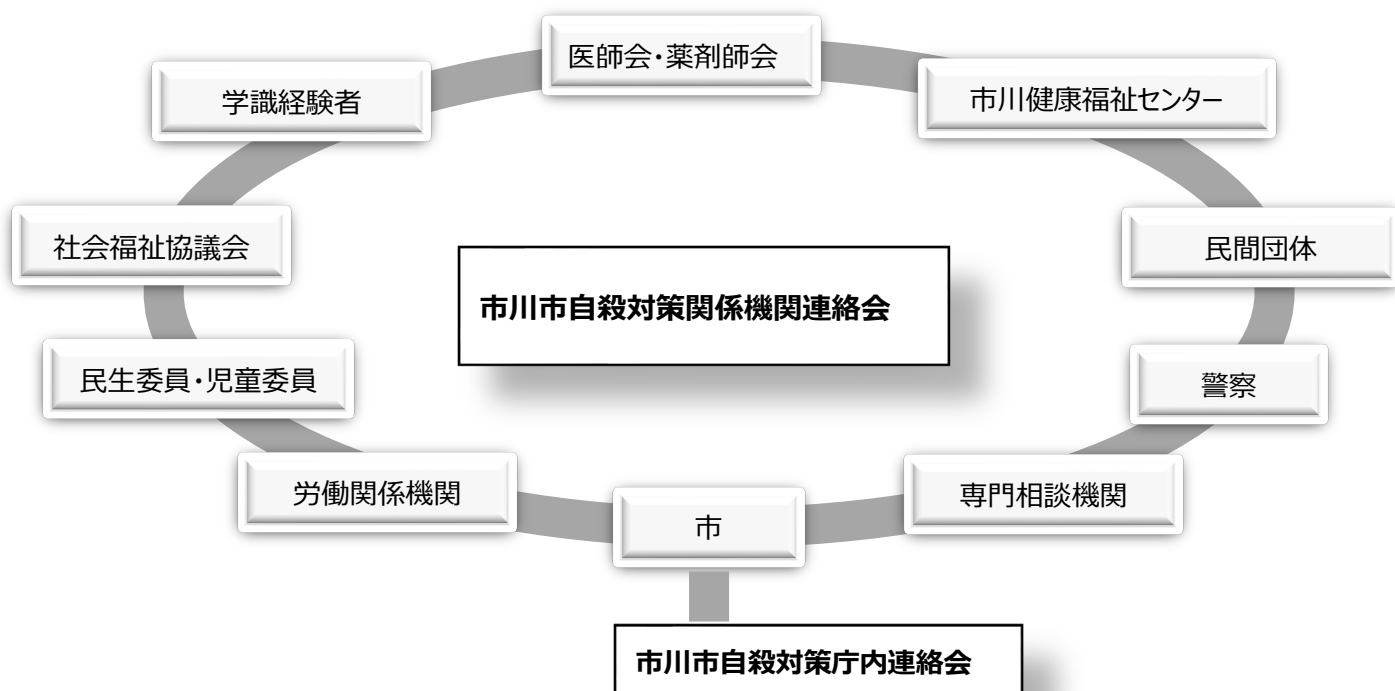
【取組の一例】

▷ココロの健康相談

▷ココロの体温計

自殺対策の推進体制

本計画では、本市の関係部署との連携の強化を前計画より継続し、本市や千葉県内で活動する関係機関との連携を図り、広域的・専門的に推進していきます。



いのち支えるいちかわ自殺対策計画（第3次）【概要版】

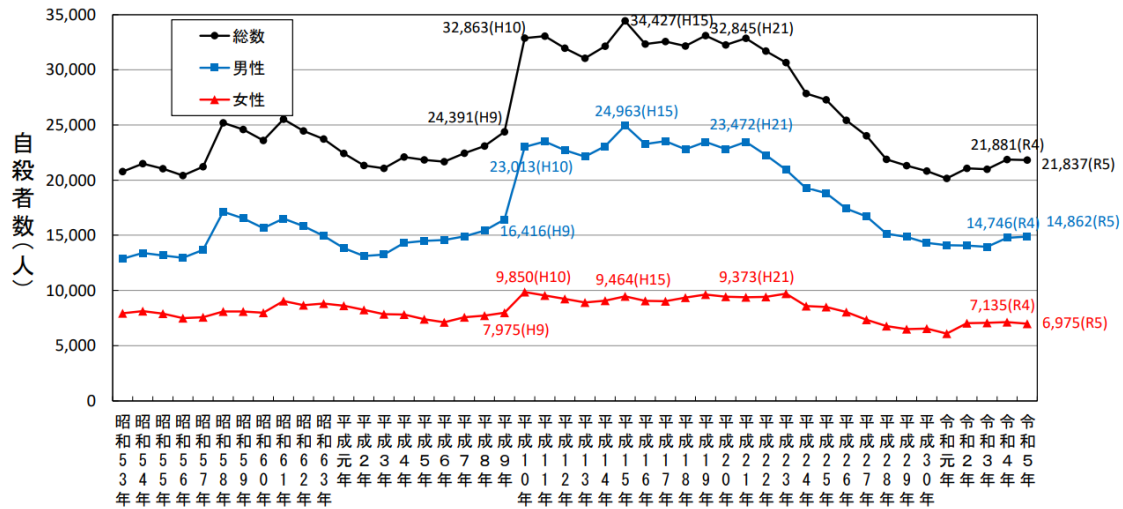
2024年3月

編集・発行 市川市保健部 保健センター健康支援課
〒272-0023 千葉県市川市南八幡4丁目18番8号
電話：047-377-4511 FAX：047-316-1568
市川市ホームページ：http://www.city.ichikawa.lg.jp/

1-1 自殺者数の推移(全国)

令和5年の自殺者数は、21,837人で、前年と比べ44人(0.2%)減少した。

男女別にみると、男性は2年連続で増加したが、女性は4年ぶりに減少。男性の自殺者数は、女性の約2.1倍となっている。

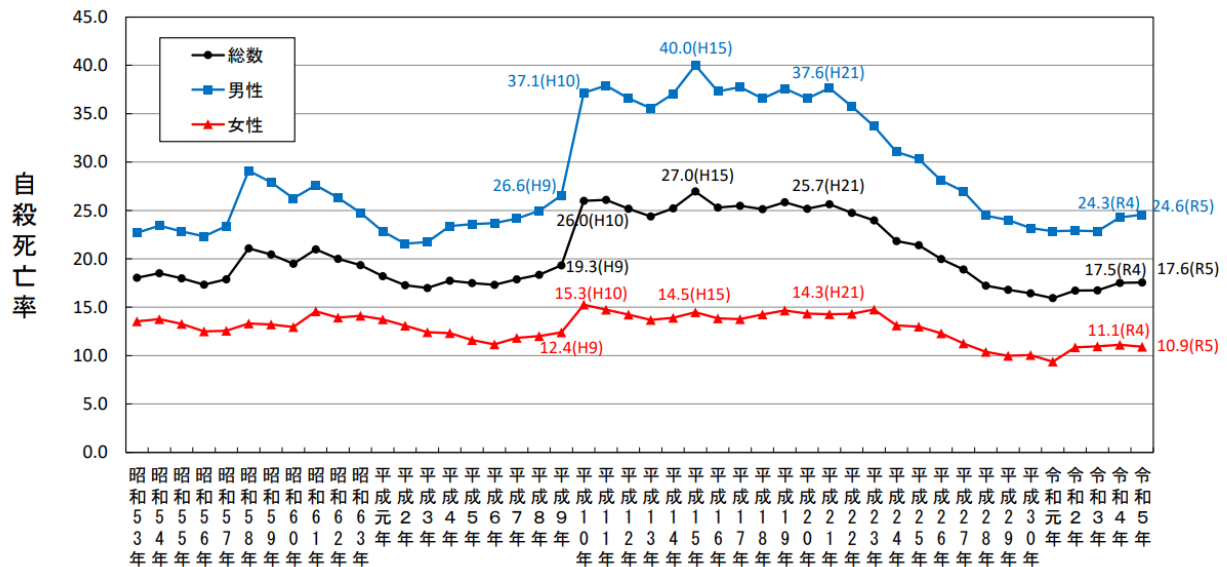


【出典】警察庁自殺統計原票より厚生労働省作成

1-2 自殺死亡率の推移(全国)

令和5年の自殺死亡率は17.6となり、前年と比べ上昇した。

男女別にみると、男性は24.6(前年より上昇)、女性は10.9となった(前年より低下)。

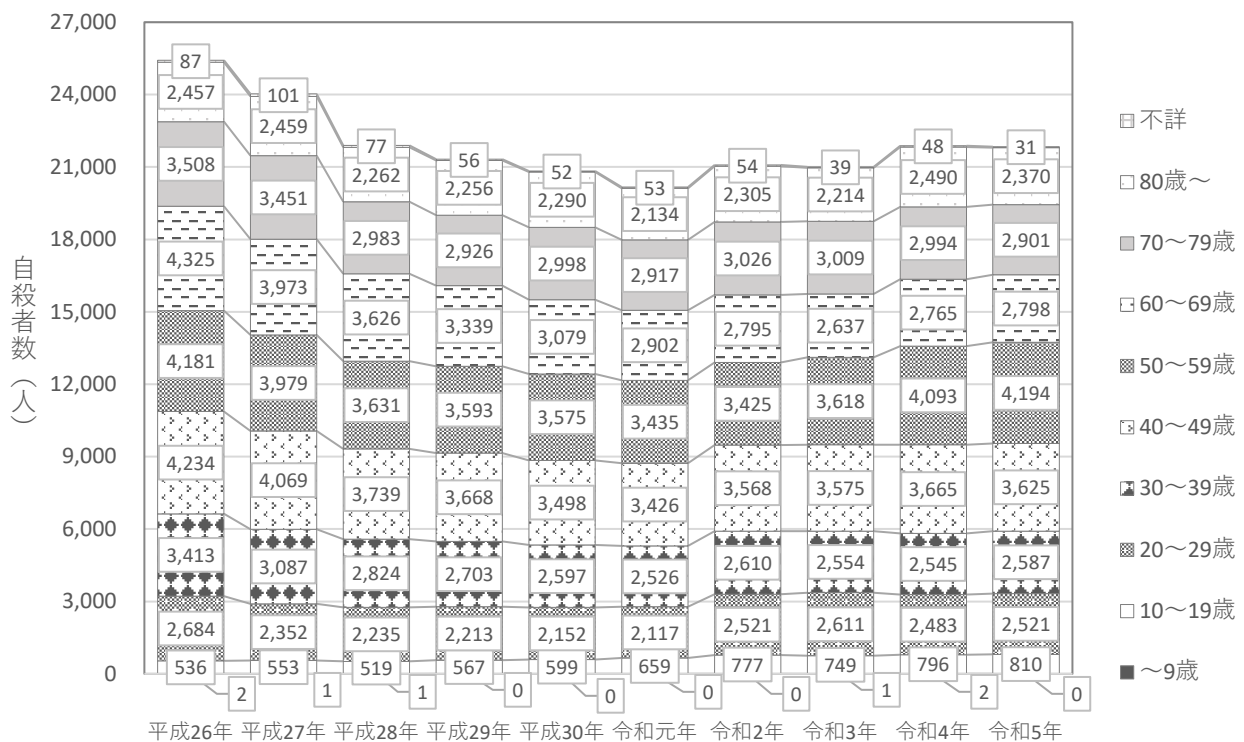


注)「自殺死亡率」とは、人口10万人当たりの自殺者数を表します。

【出典】警察庁自殺統計原票データ、総務省「人口推計」より厚生労働省作成

1-3 年齢階級別自殺者数の推移(全国)

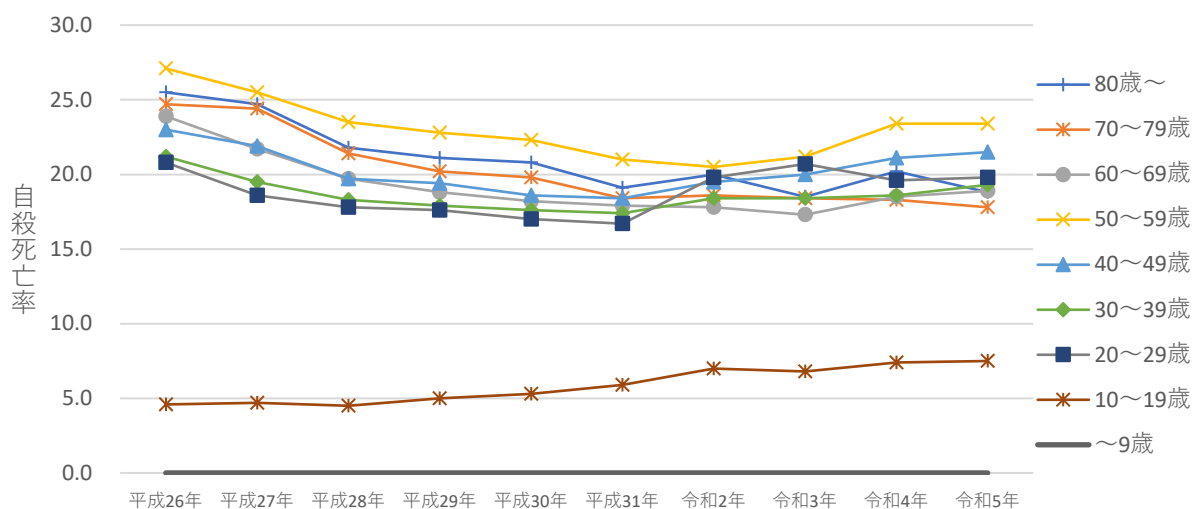
令和5年は前年と比べ、9歳以下、40歳代、70歳代及び80歳以上が減少し、その他の年齢階級は増加した。80歳以上の年齢階級が最も減少し、50歳代が最も増加した。



【出典】警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成グラフ改変

1-4 年齢階級別自殺死亡率の年次推移(全国)

令和5年は前年と比べ、70歳代・80歳以上で低下し、9歳以下及び50歳代は横ばいとなり、その他の年齢階級では上昇した。最も低下したのは、80歳以上であり、最も上昇したのは30歳代であった。



注)「自殺死亡率」とは、人口10万人当たりの自殺者数を表します。

【出典】警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成グラフ改変

1-5 死因順位別にみた年齢階級・死亡数・死亡率(全国・令和5年)

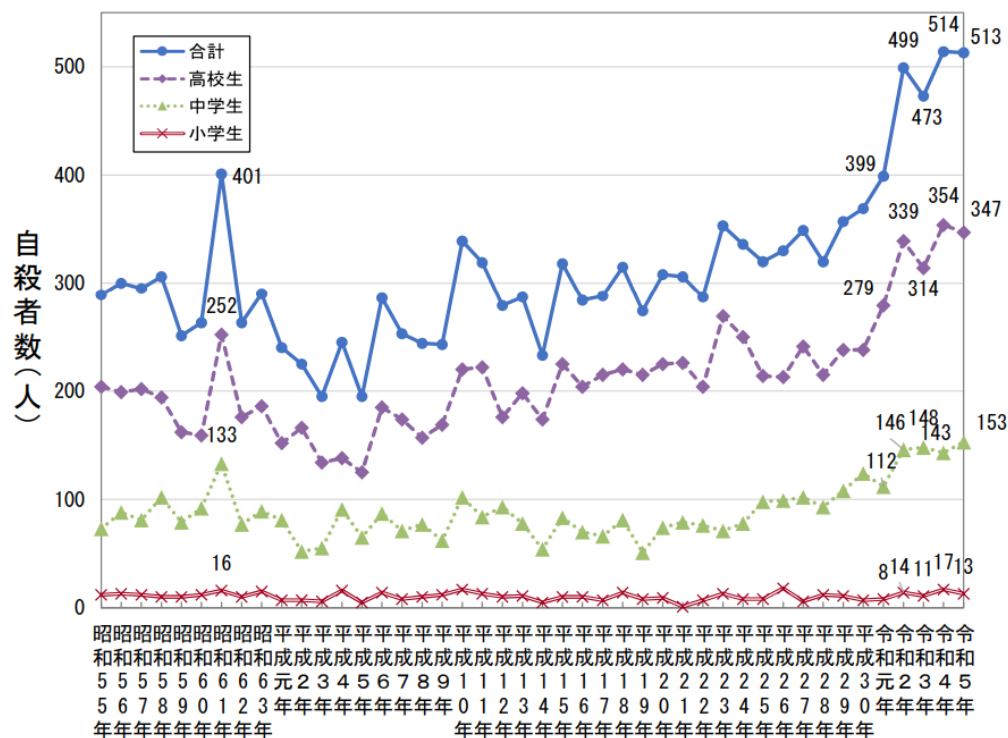
10歳代、20歳代、30歳代の死因原因の第1位が自殺となっている。

	第1位			第2位			第3位		
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率
10～14歳	自殺	120	2.3	悪性新生物	81	1.6	不慮の事故	51	1.0
15～19歳	自殺	653	12.1	不慮の事故	171	3.2	悪性新生物	116	2.2
20～24歳	自殺	1194	20.7	不慮の事故	259	4.5	悪性新生物	167	2.9
25～30歳	自殺	1208	20.3	悪性新生物	223	3.8	不慮の事故	203	3.4
30～34歳	自殺	1183	19.8	悪性新生物	437	7.3	心疾患	205	3.4
35～39歳	自殺	1319	19.5	悪性新生物	951	14.1	心疾患	392	5.8
40～44歳	悪性新生物	1900	25.3	自殺	1567	20.8	心疾患	691	9.2
45～49歳	悪性新生物	3949	44.2	自殺	1932	21.6	心疾患	1589	17.8
50～54歳	悪性新生物	7742	81.7	心疾患	2912	30.7	自殺	2213	23.4
55～59歳	悪性新生物	11102	136.5	心疾患	3964	48.7	脳血管疾患	2148	26.4
60～64歳	悪性新生物	17352	234.4	心疾患	5641	76.2	脳血管疾患	2842	38.4
65～69歳	悪性新生物	28301	389.9	心疾患	8182	112.7	脳血管疾患	4270	58.8
70～74歳	悪性新生物	55118	628.9	心疾患	16506	188.3	脳血管疾患	8629	98.5
75～79歳	悪性新生物	64290	864.5	心疾患	22912	308.1	脳血管疾患	11986	161.2
80～84歳	悪性新生物	69731	1187.8	心疾患	34229	583.1	脳血管疾患	17398	296.4
85～89歳	悪性新生物	65611	1654.7	心疾患	49427	1246.5	老衰	38343	967.0
90～94歳	老衰	61321	3004.5	心疾患	50788	2488.4	悪性新生物	40815	1999.8
95～99歳	老衰	48816	8190.6	心疾患	27390	4595.6	悪性新生物	12838	2154.0
100歳以上	老衰	18683	21474.7	心疾患	5844	6717.2	脳血管疾患	1826	2098.9

【出典】人口動態統計より作成

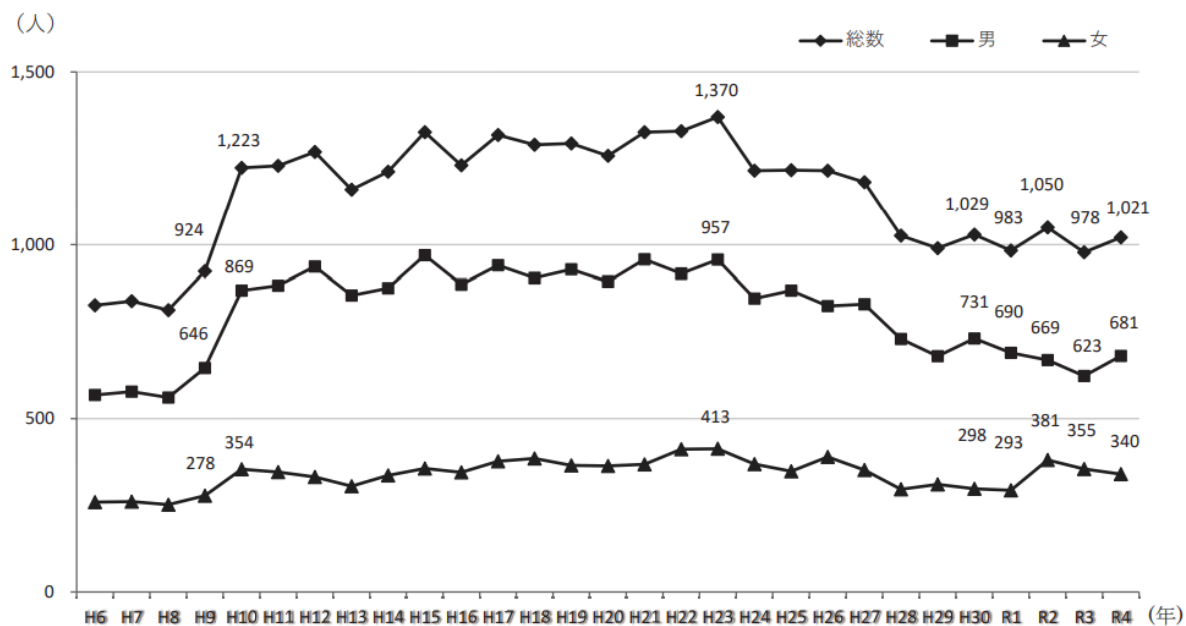
1-6 学生・生徒等の自殺者数の年次推移(全国)

令和5年の小中高生の自殺者数は513人であり、前年と比べ1人の減少となった。



2-1 自殺者数の推移(千葉県)

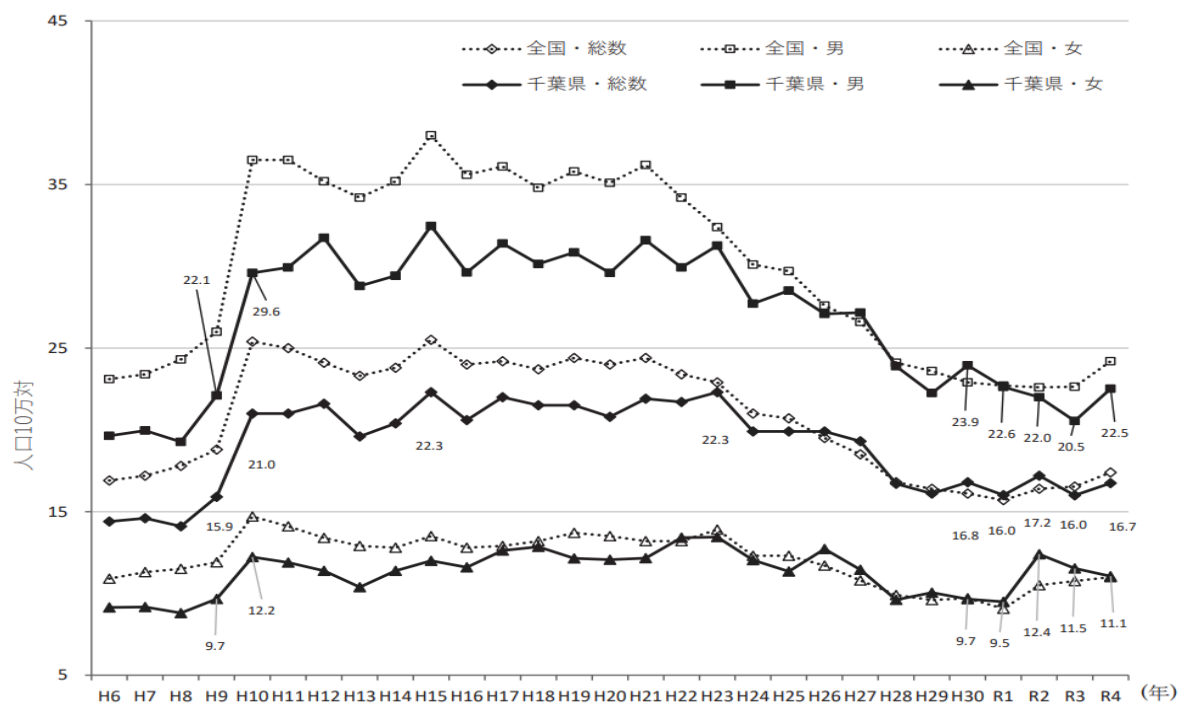
平成30年から令和4年までの5年間では、1,000人前後で推移している。令和4年は、前年よりも43人増加している。男女別にみると男性では令和4年に4年ぶりに増加となり、女性では令和2年以降減少傾向にある。



【出典】千葉県衛生統計年報

2-2 自殺死亡率の推移(千葉県)

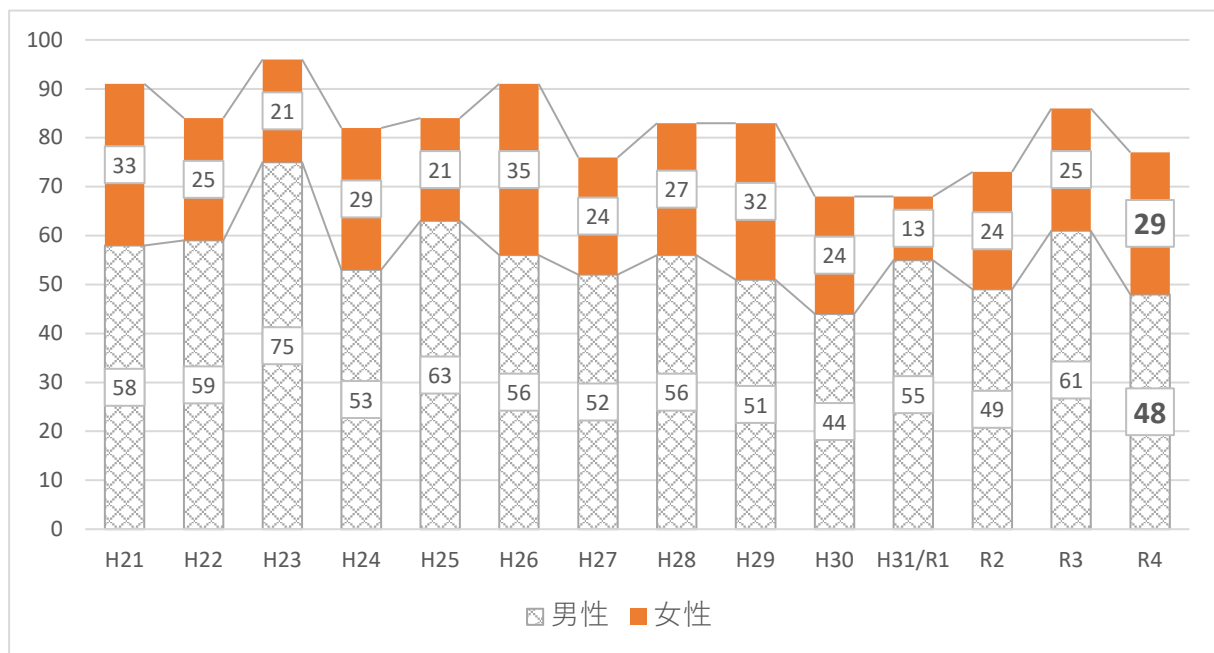
令和5年の自殺死亡率は17.6となり、前年と比べ上昇



【出典】千葉県衛生統計年報

3-1 自殺者数の推移(市川市)

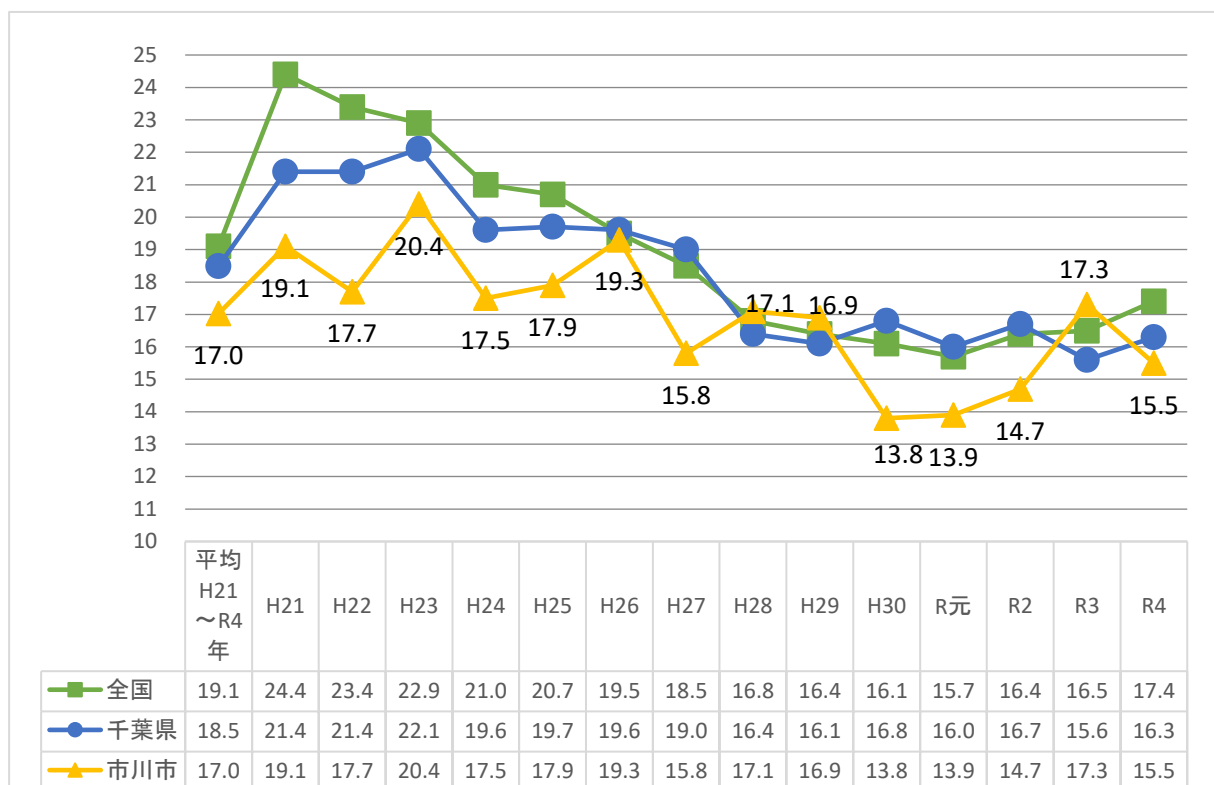
令和4年の自殺者数は77人。令和3年よりも減少し、3年振りの減少となった。



【出典】千葉県衛生統計年報より作成

3-2 自殺死亡率の推移(市川市)

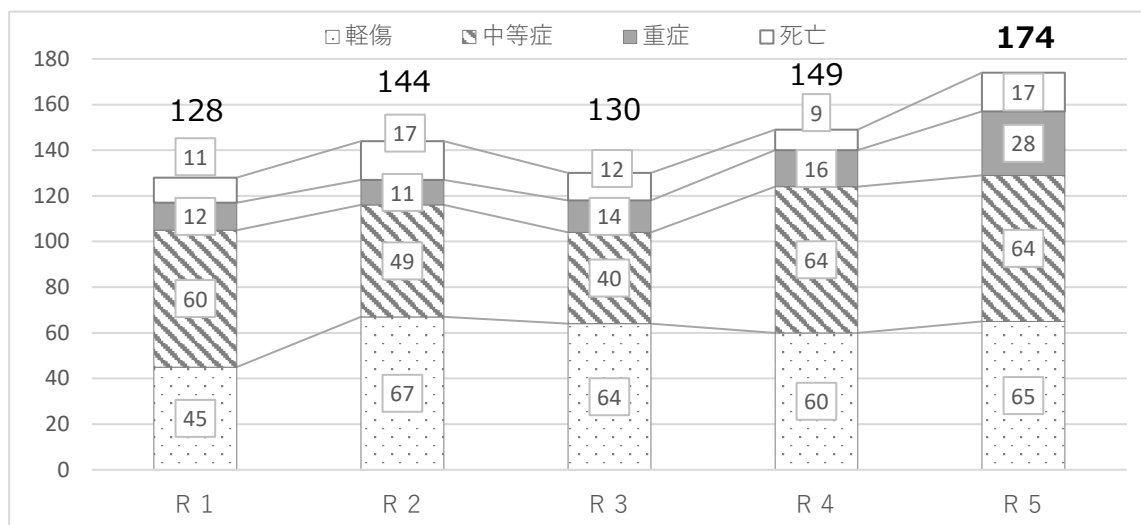
増減を繰り返しながら、減少傾向にある。



【出典】人口動態統計及び千葉県衛生統計年報より作成

4-1 自損行為による救急搬送人員状況(市川市)

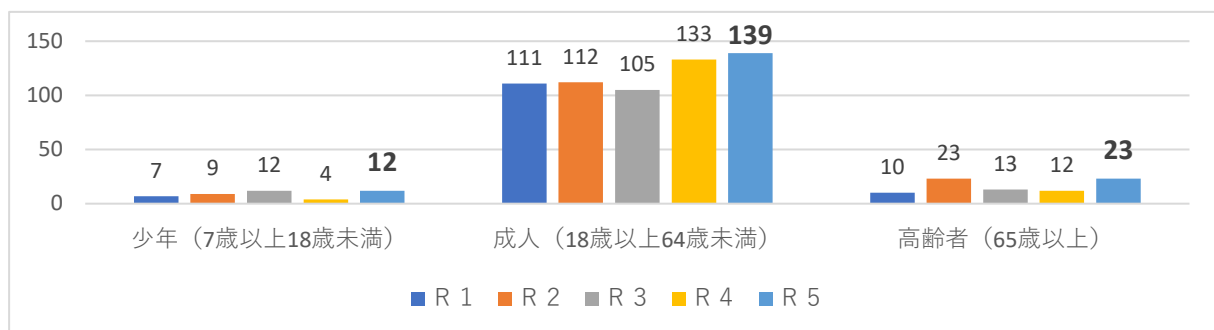
救急搬送数は増加傾向にあり、令和5年は174人であった。



【出典】市川市消防局「消防年報」を基に作成

4-2 自損行為による年齢別搬送者数(市川市)

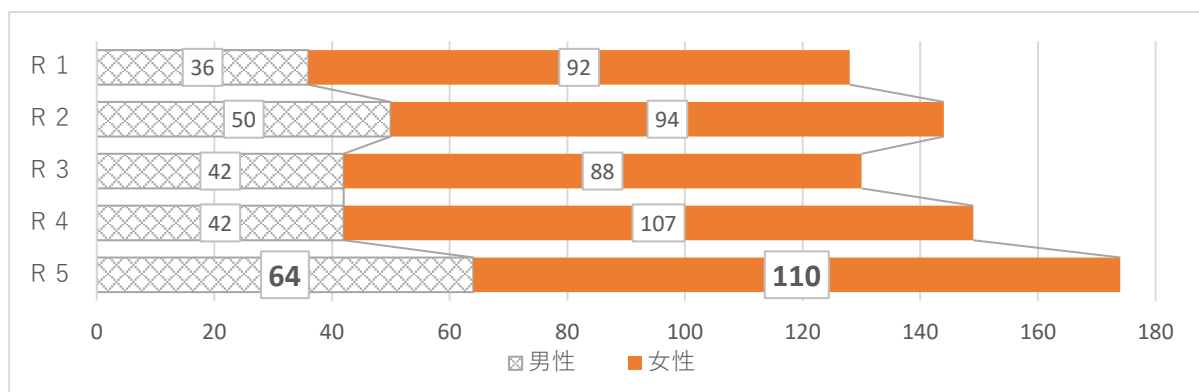
令和5年は前年と比較し、いずれの年代も増加している。



【出典】市川市消防局「消防年報」を基に作成

4-3 搬送者の男女別数(市川市)

救急搬送数は、女性が男性と比べ多くなっている。



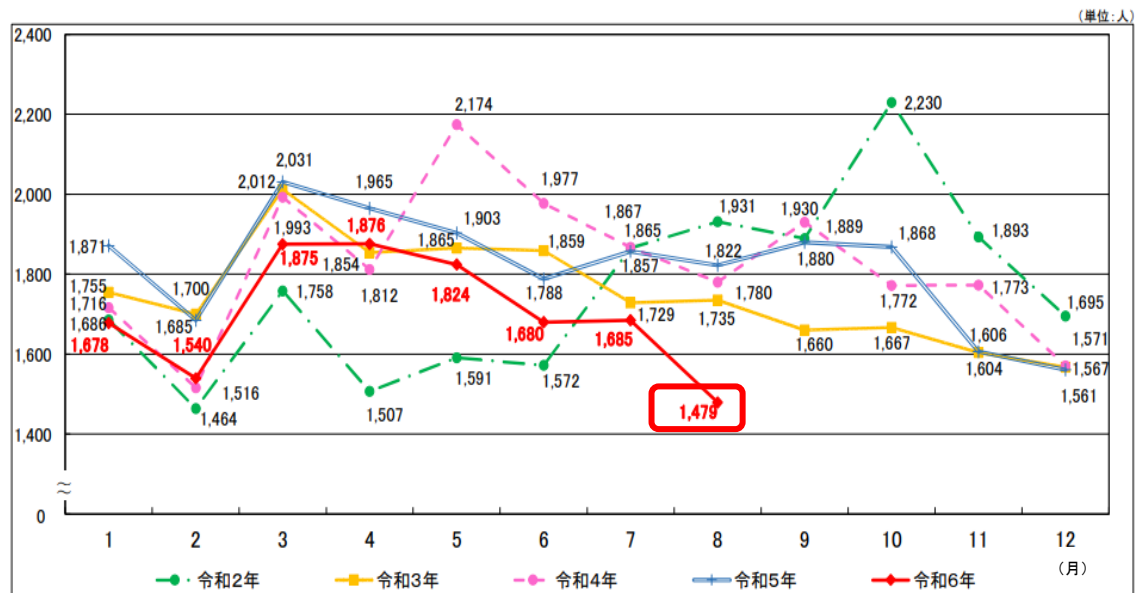
【出典】市川市消防局「消防年報」を基に作成

5-1 全国月別自殺者数の推移(総数)

令和6年8月の自殺者数は、暫定値で1,479人であり、対前年同月比343人減。

令和6年1月～8月累計自殺者数は暫定値で13,637人。対前年同月比1,285人減。

(令和6年8月暫定値)



【出典】厚生労働省自殺対策推進室作成資料より

5-2 対前年同月自殺者増減数及び増減率上位5県(総数)

令和6年8月対前年自殺者増減数及び増減率。

(令和6年8月暫定値)

対前年同月自殺者増減数上位5県

		令和5年	令和6年	対前年比	
				増減数	増減率
増加	秋田	9	20	11	122.2
	福井	1	11	10	1000.0
	岩手	16	23	7	43.8
	宮崎	20	25	5	25.0
	埼玉	100	105	5	5.0
減少	大阪	110	58	-52	-47.3
	兵庫	98	50	-48	-49.0
	静岡	61	26	-35	-57.4
	福岡	86	59	-27	-31.4
	神奈川	110	90	-20	-18.2

対前年同月自殺者増減率上位5県

		令和5年	令和6年	対前年比	
				増減数	増減率
上昇	福井	1	11	10	1000.0
	秋田	9	20	11	122.2
	岩手	16	23	7	43.8
	沖縄	14	18	4	28.6
	宮崎	20	25	5	25.0
低下	長崎	14	5	-9	-64.3
	鳥取	5	2	-3	-60.0
	静岡	61	26	-35	-57.4
	石川	20	9	-11	-55.0
	山口	22	10	-12	-54.5

【出典】厚生労働省自殺対策推進室作成資料より

5-3 原因・動機・年齢別自殺者数(総数)

20歳代以上の世代では、健康問題が動機として1位となっており、20歳未満の世代では、学校問題が動機として1位となっている。

(令和6年8月暫定値)

年齢階級	自殺者 総数	原因・動機特定者の原因・動機								不詳
		総数	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	
総数	1404	1183	284	811	305	171	54	27	104	221
20歳未満	49	37	7	11	1	2	7	18	5	12
20-29	179	147	23	74	37	28	24	9	21	32
30-39	161	132	32	67	44	33	10	0	10	29
40-49	202	175	62	90	60	50	6	0	12	27
50-59	275	230	59	149	81	40	3	0	24	45
60-69	168	145	31	118	51	14	1	0	7	23
70-79	188	158	24	150	23	3	3	0	8	30
80歳以上	176	158	46	152	8	0	0	0	17	18
不詳	6	1	0	0	0	1	0	0	0	5

【出典】厚生労働省自殺対策推進室作成資料より

(備考)「原因・動機特定者」とは、少なくとも1つの原因・動機が特定されている自殺者をいう。

原因・動機を4つまで計上可能としているため、総数と原因・動機別自殺者数の和は一致しない。

5-4 職業・動機・年齢別自殺者数(総数)

いずれの職業においても、健康問題、経済・生活問題、家庭問題が動機として上位となっている。

(令和6年8月暫定値)

職業		自殺者 総数	原因・動機特定者の原因・動機								不詳
			総数	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	
総数		1404	1183	284	811	305	171	54	27	104	221
有職	総数	503	461	123	207	155	149	33	3	42	42
	管理的職業従事者	104	98	18	39	61	25	4	0	10	6
	専門的・技術的職業従事者	51	49	17	27	7	21	1	0	5	2
	事務従事者	27	23	8	11	3	10	0	0	2	4
	販売従事者	35	31	7	13	12	14	6	0	1	4
	サービス職業従事者	67	61	15	35	21	14	7	0	6	6
	保安職業従事者	16	14	5	4	4	2	1	1	3	2
	農林漁業従事者	12	12	5	5	4	1	1	0	0	0
	生産工程従事者	63	59	25	20	10	17	4	0	8	4
	輸送・機械運転従事者	22	21	4	4	6	9	3	0	2	1
	建設・採掘従事者	39	35	7	12	17	14	1	0	1	4
	通信・運搬・清掃・包装等従事者	35	30	7	19	4	11	3	0	2	5
	その他	32	28	5	18	6	11	2	2	2	4
無職	総数	779	711	161	601	143	21	20	24	61	68
	総数	55	48	8	14	2	0	10	23	6	7
	未就学児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学生	9	6	3	1	0	0	0	1	2	3
	高校生	22	19	2	6	0	0	5	10	1	3
	大学生	20	19	2	7	1	0	4	10	3	1
	専修学校生等	4	4	1	0	1	0	1	2	0	0
	総数	724	663	153	587	141	21	10	1	55	61
	主婦・主夫	55	54	23	52	5	1	0	0	2	1
	失業者	60	58	8	33	45	11	1	0	6	2
	母子・配偶・寡妻等生活者	2	2	0	2	1	1	0	0	0	0
	中絶・虐待経験等生活者	397	360	74	357	37	5	4	0	32	37
	ホームレス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の無職者	210	189	48	143	53	3	5	1	15	21
不詳		122	11	0	3	7	1	1	0	1	111

【出典】厚生労働省自殺対策推進室作成資料より

5-5 厚生労働省からのメッセージ

あなたの声を聞かせてください

何となく不安を感じたりしていませんか。そんな時は、深呼吸をしたり、体を動かしたり、人と話をしたりすることで、気持ちの切り替えができることもあります。

悩みをお持ちの方、困っている方は、どうか一人で抱えこまないでください。ご家族やご友人など、身近な人に相談してみることで、気持ちが少し楽になることもあると思います。身近な人に相談しづらい時には、電話やSNSでの相談窓口もありますので、ぜひ相談してみてください。匿名でも大丈夫です。

また、身近な人の様子がいつもと違うと感じた時には、声をかけてみてください。その声かけが、不安や悩みを少しでもやわらげることにつながるかもしれません。

特に、こどもは、長期休暇明け前後に、不安を感じたり、悩んだりすることがあるかと思います。こどもたちと関わる皆様は、こどもの態度に現れる小さなサインに気付き、不安や悩みの声に耳を傾けるようにしてください。

令和6年8月27日



厚生労働大臣 武見敬三

文部科学大臣 盛山正仁

こども政策担当大臣

加藤 鮎子

孤独・孤立対策担当大臣

厚生労働省ウェブサイト「まもろうよこころ」

▶ 電話やSNSの相談窓口等を分かりやすく紹介

<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>



わか せだい
若い世代のみなさんへ

なつやす あ がっこう はじ なん こころ
夏休みが明け、学校が始まりますね。何となく心がもやもやしたり、ざわついたりしていませんか。進路や友人、家族に関する悩みをかかを抱えたりしていませんか。

とき しんこきゅう からだ うご
そんな時は、深呼吸をしたり、ストレッチをするなど体を動かしたりすることで、気持ちの切り替えができるかもしれません。

だれ はな き も らく かぞく
誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。家族やゆうじん みちか ひと はな とき えすえぬえす でんわ そうだん
友人など身近な人に話しづらい時には、SNSや電話の相談まどぐち じぶん なまえ い だいじょうぶ
窓口もあります。自分の名前を言わなくても大丈夫ですし、スマホかそうだん ひとり かか こ きがる なや きも
ら相談できます。一人で抱え込まないで、気軽に悩みや気持ちをつた
伝えてみてください。

ようす ちが かん ひと こえ
もし、あなたのまわりで様子がいいつもと違うと感じる人がいたら、声をかけて、信頼できる大人につないでください。その一歩が、不安なや すこ
や悩みを少しでもやわらげることにつながるかもしれません。

れいわ ねん がつ にち
令和6年8月27日



こうせいろうどうだいじん たけ み けいぞう
厚生労働大臣 武見敬三
もんぶかがくだいじん もりやまさひと
文部科学大臣 盛山正仁
せいさくたんどうだいじん
こども政策担当大臣
こどく こりつたいさくたんどうだいじん
孤独・孤立対策担当大臣

かどうあゆ こ
加藤 鮎子

こうせいろうどうしょう
厚生労働省ウェブサイト「まもろうよこころ」
でんわ えすえぬえす そうだんまどぐちをわ しやうかい
▶電話やSNSの相談窓口等を分かりやすく紹介
<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>



自殺対策事業実績

1 相談事業

(1) 市川市こころの健康相談（委託事業）

(相談件数)

	電話相談	面接相談	WEBメール 相談	年合計	(性別内訳) 上段：男性 中段：女性 下段：不明	月平均
R2年度合計	405	8	11	424	200 224 0	65
R3年度合計	1,634	3	4	1,641	751 869 21	136
R4年度合計	2,485	19	5	2,509	1046 1422 41	209
R5年度合計	3,586	38	58	3,682	1420 2241 21	306
R6年度合計 (4月～9月)	2,092	15	49	2,156	709 1397 50	359.3

※ R2年9月から事業開始

2.25倍

(2) - 1 精神保健関連の相談（保健センター健康支援課）

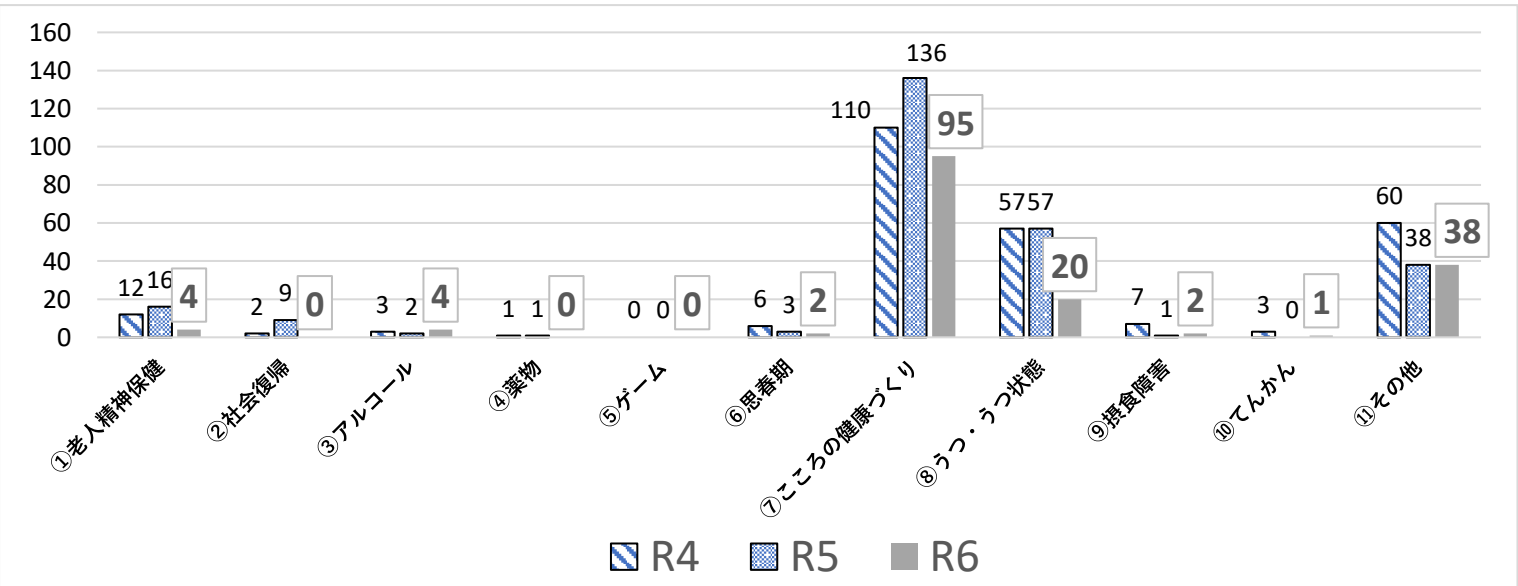
(相談件数)

	H30年度	R元年度	R 2年度	R 3年度	R4年度	R5年度	R 6年度(4月～9月)	(参考) 全相談件数
電話	279	377	443	355	492	314	148	266
面接	44	48	33	16	31	56	7	12
訪問	94	171	120	30	47	46	0	0
計 (延)	417	596	596	401	570	416	155 男性： 30 女性： 122 不明： 3	278

(2) - 2 精神保健関連の電話相談内訳（保健センター健康支援課）

※重複あり。R6年度はR6.4～9月までの件数

(相談件数)



2 普及啓発事業

(1) ゲートキーパー研修

地域や職場、教育等への分野において自殺のサインに気づき、見守りを行い、専門相談機関による相談へつなぐ役割が期待される人に対し、研修を実施。

- ・庁内職員対象 3回
- ・市民対象 1回

(2) 快適睡眠講座

加齢に伴う睡眠リズムの変化を理解し、その対応方法について知ってもらう。

(3) リーフレットやカード等の配付による普及啓発

庁内各窓口、市内公立小中学校、各関係機関にて実施。



(4) こころの体温計

スマートフォン、携帯電話、パソコンから24時間いつでも気軽にできるメンタルチェックシステム。簡単な質問に回答するだけで、こころの健康状態をチェックすることができる。

(5) SNSによる周知

9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間、長期休暇中(8月、12月)に、こころの健康相談等の案内を配信。

(6) 懸垂幕や電光掲示板による周知

9月の自殺予防週間と3月の自殺対策強化月間に、第1庁舎及び第2庁舎、行徳支所に掲示。

